



今できること  
プロジェクト  
2023-2024  
再生と伝承

中学生に  
託す伝承の  
バトン

震災伝承新聞被災地取材レポート①

塩竈市立第二中学校→多賀城市

# 中学生記者が復興の現場へ

将来の大災害に備える教訓の若き担い手である中学生たちが、宮城県内の被災地取材し、その成果を「震災伝承新聞」として来年2月に発行。宮城県内外の中学校や災害伝承施設へ配布する予定です。今年度で4回目を数えるこの取り組み。今回も3校が参加し、第一陣として塩竈市立第二中学校の6人が多賀城市を訪問しました。



まち歩き途中、震災津波の高さを確認



昨年度制作した  
震災伝承新聞

自分自身で見て、伝え、備える。



## 現地で感じたことを同世代に伝えるために

取材に先立ち、河北新報社の記者経験者が取材のノウハウや東日本大震災における多賀城市の被害状況を説明するオリエンテーションを実施。

9月23日、塩竈二中の6人はイオン多賀城店で宮城県多賀城高校災害科学科の8人と合流しました。防災教育の一環でフィールドワークを授業に取り入れている高校生たちのガイドで、JR多賀城駅まで約1.4キロの浸水域をたどる“まち歩き”がスタート。災害科学科の生徒が各所に設置した津波浸水高を示すサインを巡りました。JR多賀城駅前広場にゴール後は、多賀城市立図書館で“まち歩き”の振り返りと、高校生への取材を実施。防災の担い手として学んでいる高校生たちの思いにふれました。

次に東日本大震災では敷地に津波が押し寄せるなか



多賀城市立図書館で高校生たちに取材

救護活動を行なった「陸上自衛隊多賀城駐屯地」へ。食堂で部隊食の昼食後、東日本大震災における自衛隊の災害派遣活動を紹介するVTRを視聴。広報室長の佐藤文弘さんらに聞き取りを行い、非常時における避難の心得や周囲への声かけの大切さなどを学びました。

駐屯地を出発後、「多賀城市役所」では、八幡上二区町内会前会長の渡邊武さんと、多賀城市総務部危機管理課防災減災係主幹の米山美人さんに聞き取りを実施。渡邊さんは、津波で浸水した自宅写真を示し、中学生たちに想定を超える災害の恐ろしさを伝えました。米山さんは、多賀城市が推し進めてきた震災の記録のデジタル



自衛隊の活動について耳を傾ける中学生

データベース化や、さまざまな防災の取り組みについて説明。中学生たちは、未来の防災都市像にふれる貴重な機会となりました。



渡邊武さん(写真左)と米山美人さん

現在、中学生記者たちが取材を振り返りながら、2月発行予定の特集紙面の制作に奮闘中です！

私たち賛同企業も、再生と伝承のために「今できること」をともに考え、このプロジェクトに賛同し、推進していきます。

IHI/アサヒビール 東北統括本部/石巻市震災遺構門脇小学校・大川小学校/岩手日日新聞社/NTTデータ東北/キリンビール 東北統括本部/ケーズデンキグループ・デンコードー/劇団四季/光輝ビルテクノス/神戸製鋼所東北支店/サッポロビール/サントリー 東北営業本部  
JTB 仙台支店/住友不動産 東北事業所/生命保険協会 宮城県協会/仙台環境開発/DICグラフィックス/伝承千年の宿 佐助/東伸環境/日本製紙/日本製紙クレシア/日本損害保険協会/日本郵便 東北支社/野村不動産 仙台支店/東日本油化工業/平松剛法律事務所/藤崎富士フィルムグラフィックソリューションズ/みちのく企業グループ/三井住友海上/三井不動産/三菱地所グループ/三菱重工機械システム/宮城県建設業協会/宮城県自動車整備振興会/宮城交通/みやぎ生協/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 宮城支社/河北新報社 (順不同)

©後援/宮城県、福島県、仙台市、石巻市、塩竈市、多賀城市、名取市、大熊町、富岡町、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

これまでの活動内容や新着情報は「今できることプロジェクト」特設HPをご覧ください。

[www.kahoku.co.jp/imadeki/](http://www.kahoku.co.jp/imadeki/)

河北 今できること

検索

facebookページもあります。

企画・制作



営業局(今できることプロジェクト事務局)

【お問い合わせ】

今できることプロジェクト事務局(河北新報社営業部)

tel 022-211-1318